

# 日本RNA学会会報

No.1 (1999年 10月)

## < 目次 >

### 会長挨拶

日本 RNA 学会設立の経緯

日本 RNA 学会設立趣意書

日本 RNA 学会発起人名簿

第1期役員名簿

第1回日本 RNA 学会報告

日本 RNA 学会 第1回運営会議・議事録

第2回日本 RNA 学会の予定

日本 RNA 学会ホームページについて

Genes to Cells 誌への投稿よびかけ

## < シンポジウムのお知らせ >

○ IMSUT シンポジウム

○ FASEB Summer 2000 Reseach Conference

○ 第3回公開シンポジウム

文部省科学研究費補助金 特定領域研究 「RNA 動的機能の分子基盤」

## 志村令郎会長の挨拶

この度、日本 RNA 学会が設立されました。この設立の背景となったのは、何よりも先ず RNA 研究が近年飛躍的に発展し、様々な重要な発見がなされ、さらに高次複合形質の発現制御も含めた生物・生命科学の色々な領域に RNA が関与していることが明らかになったことが挙げられます。また我が国の RNA 研究には伝統もあり、加えていくつかの重点領域研究、特定領域研究等の文部省科学研究費補助金を受けて、RNA 研究は裾野が広がり、質量共に発展してきたことも重要な背景となっております。

こうした中で、我が国における RNA 研究の更なる発展と、若手研究者の育成を目的として、この学会は設立されたのであります。しかしながらそれに到る迄には、煩雑な問題や困難な問題が少なからずありましたが、関係各位の情熱と献身的な努力に依って、設立に漕ぎ着けることが出来ました。ここに改めてこれら関係各位に深甚の感謝を申し上げたいと思います。

勿論、この学会は、このような設立に尽力された人たちだけのものではなく、RNA 研究に直接あるいは間接に興味を持つ総ての人たちのものであります。若手の研究者や院生でも気楽に討論に参加出来るような、自由闊達な雰囲気を持つ生き生きした学会になって欲しいと思っております。研究者とりわけ若手の研究者は、この学会を足掛かりにして、大きく飛躍して行って欲しいと思います。RNA に関する研究分野において、我が国から骨太の優れた研究成果が得られることに少しでも役立つことが出来れば、この学会を設立したことの意義は十分にあると思っております。会員の皆さんの更なる努力と、研究の発展を心から期待しております。

## 日本 RNA 学会設立の経緯

---

今夏、日本 RNA 学会が京都での総会を経て無事設立されました。準備に携わったメンバーの1人として、ここにその経緯を報告します。なお概略は趣意書と会長挨拶に記されています。重複する内容がありましたらご容赦ください。

学会設立の背景には、近年 RNA 研究が国内外で急速に進展し、一学問分野としてまとまりを見せてきたという時代の風潮があります。しかし、設立の気運を作り、それを熟成させ実際に学会設立に漕ぎ着けることができたのは、文部省科学研究費補助金「特定領域研究」(平成9年度までは重点領域研究)と「RNA 研究若手の会」の関係者の尽力によるものと思います。

我が国の RNA 研究は、これまでいくつかの世界的な業績を挙げながら確固たる伝統を培ってきました。当初、それらは研究者の個々の成果の積み重ねでありましたが、文部省科学研究費補助金による重点領域研究の発足を契機として、これらをいくつかの視点のもとに統合することによりグループ研究として根付かせることに成功しました。すなわち RNA を研究対象として初めて発足した重点領域研究「遺伝暗号の可変性」(代表 大澤省三、名大教授;平成元年~3年)が成果を挙げ、その活力は RNA の構造に重点を置いた「RNA 機能構造の新視点」(代表 横山茂之、東大教授;平成4~7年)に受け継がれ、現在の特定領域研究「RNA 動的機能の分子基盤」(平成9~12年)に到っています。また RNA ゲノム全体を研究対象として発足した「RNA レプリコン」(代表 野本明男東大教授;平成4~6年)において進展した RNA 情報機能に関する研究グループも現在の特定領域に合流しました。

ご承知のように RNA 研究は、これら重点領域研究が継続している約10年の間に、国内外で飛躍的な躍進を遂げましたが、それにつれて日本での研究者人口も増加し、他分野からの新規参入も珍しくない程に研究の規模が拡大しました。そのため現特定領域研究の関係者から、RNA 研究者間の交流を、単に特定領域研究関係者のみに止めず、RNA 研究に携わる研究者全体に広げべきとの気運が昂まってきました。

同時期にこの気運を盛り立て、若手研究者の結束と行動力を示したのが、九州大学の谷時雄、神戸大学の坂本博両氏を世話人として発足した「RNA研究若手の会」です。この会は、両氏がオーガナイザーとなって大規模な「夏の学校」を、1997年および98年に神戸の六甲と九州の志賀の島で開校しました。この会は、いずれの年も100名近い参加者を得て活況を呈し、夜を徹して親睦をかねた活気溢れる情報交換の場となり、将来、学会が設立された暁には若手研究者が学会活動を活性化させるだろうとの期待を抱かせるのに十分なものでした。

以上の状況のもと、特定領域と若手の会に関わる研究を融合し、RNA 学会として旗揚げするという案が、特定領域の班会議の席などで話題としてしばしば取り上げられるようになりました。それを受け、昨夏、弘前で行われた特定領域の総括班会議において、評価委員の方々の暖かいご支援を得て、正式に学会準備委員会を立ち上げる運びとなりました。引き続き、本年初めより、総括班の実施委員と若手の会の代表者などが準備委員となり、学会設立趣意書の作製と発起人の呼び掛け、会則案等の作製、学会事務センターとの折衝など設立に必要な準備に奔走し、ようやく8月4日の設立総会に漕ぎ着けることができました。

第一回総会は、約200名もの参加者を得て大盛況の内に開催され、会則案の承認、会長の選出などが行われ、志村令郎、初代会長のもとに名実共に新学会が発足しました。今後、この学会が我が国のすべての RNA 研究者にとって重要な研究交流の場として機能し、発展を遂げることができるか否かは、ひとえに皆様方のご協力にかかっています。これからも、できるだけ多くの方に学会に参加していただき、日本 RNA 学会を盛り立てていただくことを、設立に関わったメンバーの一人として心から願っています。

(渡辺 公綱)

## 日本 RNA 学会設立趣意書

1970 年前半に始まった遺伝子工学の画期的な手法は、1970 代後半には真核生物の遺伝子や RNA の研究にも新たな発展を促し、イントロンとエクソンからなる分断遺伝子の発見や スプライシングという新しい概念が次々と生み出される中で、1980 年代前半には触媒機能を持つ RNA (リボザイム) の発見を呼び起こしました。以後続々と RNA の多彩で多様な新しい機能が発見されるに及んで、1970 年代半ばまでは遺伝情報の伝達と発現過程における仲介者としての役割しかないと考えられていた RNA に対する固定観念が一掃され、RNA の研究に大きなパラダイムシフトがもたらされました。最近の RNA 研究は、転写、プロセッシング、翻訳過程、輸送などの現象に関して細胞分子生物学的な分野でも大きく進展すると共に、発生、分化、神経系、病態など 生体の高次複合形質の発現・制御に関する分野へも広がりを見せており、今や RNA の研究を避けて生命現象の研究を行うことは不可能といっても過言ではな時代になってきました。

わが国における RNA 研究のレベルは従来より非常に高く、国際的に評価される優れた研究成果を量産し、生命科学の発展の歴史に大きく貢献してきました。この伝統を支える現在の研究体制としては、10 年前より文部省科学研究費補助金による RNA を直接の研究対象とするグループ研究が、重点領域研究、特定領域と呼称を変えながらも継続して行われており、重要な研究成果を生み出すとともに国内の若手研究者の育成にも大きく貢献しています。また 3 年前より現在行われている特定領域研究「RNA 動的機能の分子基盤」と並行して、大学の若手教官が発起人となり「RNA 若手研究者の会」が組織され、活発な情報交換の場として、RNA に関する研究領域の拡大と若手研究者の活性化に役立っています。

一方、国際的には、近年の RNA 研究に携わる研究者人口の急激な増加が誘因となって、5 年前より米国を中心として RNA Society が組織され、「RNA」という月刊専門誌を刊行するとともに、毎年千人以上の参加者のある国際的な RNA Meeting を主催し、世界的な RNA 研究の大きな潮流を生み出しています。

このような国内外の状況から、わが国においても RNA 研究に関する総合的な統一組織を構築することが、来るべき 21 世紀の生命科学の発展のために必要であり、急務であるとの認識が関係者の間でもたれるようになり、この機に国内の RNA を中心とした生命科学の研究者に呼びかけ、日本 RNA 学会を設立しようとする気運が盛り上がってきました。この学会は、RNA の発現、機能、構造並びに RNA 結合タンパク質等の RNA に関連する生体分子を研究の対象とする、基礎生物学、細胞分子生物学、生化学、医学、農学、薬学、生物工学など生命科学に関する基礎から応用までの広範な学問領域の研究者により組織されることを想定しています。その任務は、RNA に関する研究交流、研究発表、研究情報の交換の場の提供を通じて、わが国の RNA 研究の更なる振興を計るとともに若手研究者の育成を行う事にあります。また上記の状況を踏まえつつ、広範な

分野を横断する研究者の交流と異分野間の研究の融合を促進することによって、既存の欧米の「RNA Society」を凌駕するような新しい形の組織作りを目指し、「RNA 研究に関する新しい学問領域の 創成」をその最終目標に掲げたいと思います。

このような趣旨にご賛同いただき、設立総会に参加され、日本 RNA 学会に入会いただきますようお願いいたします。

平成 11 年 6 月 日本 RNA 学会発起人一同

日本 RNA 学会発起人名簿

---

(50 音順)

饗場弘二 阿形清和 浅野 桂 朝原治一 五十嵐一衛 井川善也 石川冬木 石川正英  
伊藤耕一 伊藤建夫 伊藤道恭 稲田利文 井上 晃 井上邦夫 井上 丹 井上英夫  
井口八郎 岩瀬礼子 上杉晴一 上田卓也 牛田千里 臼倉治郎 内海利男 江尻慎一郎  
榎並正芳 遠藤仁司 遠藤弥重太 大澤省三 大島靖美 大島泰郎 太田成男 大塚栄子  
大野睦人 大濱 武 大山 隆 岡崎恒子 岡田典弘 岡野栄之 小関しおり 片岡直行  
堅田利明 加藤茂明 河合剛 太木川隆則 菊池 洋 木村富紀 木村 穰 口野嘉幸  
久野 敦 小泉 誠 神津知子 古賀理和 小林 悟 小林祐次 小松康雄 小峰由利子  
小宮山真坂本和一 坂本健作 坂本 博 佐野輝男 沢井宏明 塩見喜美子 塩見春彦  
穴戸昌彦 志田壽利 篠塚和夫 芝 清隆 嶋本伸雄 志村令郎 白石英秋 菅 裕明  
杉村秀幸 杉本直巳 杉山一夫 杉山 弘 鈴木 勉 須磨岡淳 関根光雄 多比良和誠  
高井和幸 高木敏光 高久 洋 竹島泰弘 竹中章郎 竹本千重 田中 勲 谷 時雄  
田村浩二 塚原俊文 堤 賢一 渡我部昭哉 徳永万喜 洋中島利博 中島 登 中村栄一  
中村幸治 中村正彦 中村義一 行木信一 西方敬人 西川一八 西川 諭 西村 暹  
濡木 理 野島 博 野本明男 萩原正敏 長谷川典巳 早川芳宏 林 純一 原田和雄  
原田文夫 姫野俵太 平尾一郎 廣瀬哲郎 広瀬 豊 芳坂貴弘 堀 弘幸 前田 明  
牧野圭祐 正木春彦 松尾 浩 松尾雅文 松田 彰 松藤千弥 松本 健三 浦謹一郎  
水野 猛 水本清久 南 康博 武藤あきら 武藤 裕 村尾捷利 村上 章 森井 孝  
山田優子 山名一成 山中伸弥 山本正幸 横川隆志 横堀伸一 横山茂之 吉田郁也  
吉田秀司 吉成茂夫 米崎哲朗 和田 明 和田 猛 和田健彦 渡辺公綱 渡辺嘉典

## 第1期 役員名簿

---

### ◆第1期 役員名簿(2002年3月末まで)

#### 会 長

志村 令郎生物分子工学研究所、所長

#### 評議員(50音順)

井上 丹 京都大学大学院生命科学研究科、教授

太田 成男 日本医科大学老人病研究所、教授

坂本 博 神戸大学理学部、助教授

谷 時雄 九州大学理学研究科、助教授

中村 義一 東京大学医科学研究所、助教授

武藤 あきら 弘前大学農学生命科学部、教授

野本 明男 東京大学医科学研究所、教授

横山 茂之 東京大学大学院理学系研究科、教授

渡辺 公綱(会長補佐) 東京大学大学院新領域創成科学研究科、教授

#### 幹 事

庶 務井上 邦夫 奈良先端科学技術大学院大学

バイオサイエンス研究科、助手

会 計内海 利男 信州大学繊維学部、助教授

編 集饗場 弘二 名古屋大学大学院理学研究科、教授

集 会中村 義一 東京大学医科学研究所、助教授

多比良 和誠 筑波大学応用生物化学系、教授

#### 会計監査

水本 清久 北里大学薬学部、教授

西川 一 八岐阜大学工学部、教授

---



## 第 1 回 日 本 RNA 学 会 報 告

---

第 1 回 RNA 学ミーティング(日本 RNA 学会年会)が、平成 11 年 8 月 3 日(火)~5(木)に京大 会館(京都市左京区)で開催された。参加者は計 246 名を 数え、内訳は一般 142 名、学生 100 名 及び招待者 4 名。ミーティングの内容は、進行順 に「mRNA 動態」、「翻訳」、「tRNA」、「Catalytic RNA/selection」、「スプライシング」、「輸送・局在」、「ポスターセッション」、「発生分化と RNA(1)、 (2)」および「神経分化・機能と RNA」の 10 セッションであった。この模様は学会見聞録の記事とし て、近々「蛋白質・核酸・酵素」誌に紹介される予定である。また、「日本 RNA 学会」のホームペー ジ (<http://molgen.biology.kyushu-u.ac.jp/usr/RNA/index.html>)にプログラムなどが紹介されてい る。会期中に「第一回日本 RNA 学会総会」が開催され、会則案の承認、会長、役員、評議員な どの選出が行われた。

第 2 回は平成 12 年夏に東京で開催される予定。

(井上 丹)

## 日本 RNA 学会 第1回運営会議・議事録

---

日 時: 1999年9月20日(月) 午後4時~6時

場 所: 日本学士会館分館

議 事:

### 1. 学会運営に関する基本方針と業務分担

会長より当学会の基本方針および役員幹事の業務分担の概略説明が行われ、いずれも了承された。

### 2. 学会事務業務について

(1) 日本学会事務センターに会員業務、受付業務を委任し、学会事務局所在地を事務センターに、学会本部を庶務幹事の所属部署に設置することが了承された。

(2) 学会入会申込書一式が、井上丹評議員(第1回年会世話人)から事務センターへ引き継がれた。本会議時点での入会申込者は、正会員119名、学生会員76名であること、会費の請求は事務センターが年3回行うことが報告された。

(3) 学会の運営を円滑に行うためにも、賛助会員を積極的に勧誘する必要が確認された。

### 3. 学会運営費

(1) 学会運営費は、会計幹事が管理することが確認された。

(2) 本会議時点での収入見込みは、徴収予定の入会費、初年度年会費(正会員5千円、学生会員2千円)、合計約94万円と計算される。

(3) 会議費、通信費、およびホームページの管理維持のための費用を計上する必要があることが確認された。

#### 4.広報関係について

(1)学会広報にはホームページを有効に活用する。ホームページの管理維持については、当面は谷評議員が担当する。

(2)会報を年2報程度発行する。会報は、編集幹事と庶務幹事が担当する。会報の内容は、ホームページにも掲載する。

(3)谷評議員からメーリングリスト作成の提案があり、了承された。リストの作成・運用にあたっては、プライバシーの保護などに留意し、各学会員に了解をとることとする。

(4)学会員の名簿を2年に一回程度作成する。

#### 5.第1回 RNA ミーティング会計報告

渡辺評議員(会長補佐)から、第1回 RNA ミーティングの会計報告が行われ、了承された。

#### 6.第2回 RNA ミーティングの準備状況

(1)中村評議員・集会幹事から、第2回 RNA ミーティングの準備状況について説明があり、了承された(本会報の第2回年会ご案内参照)。

(2)学生会員への負担の軽減を計るためにも、抄録集への広告掲載などの必要性が確認された。

#### 7.国際 RNA ミーティング開催について

会長より、日本での国際 RNA ミーティング開催(3、4年先)について、RNA Society の J.Abelson 会長に打診中であることが報告された。

(庶務幹事・井上邦夫)

---

## 第2回 RNAミーティング（予定）

日時:平成12年7月30日(日)~8月2日(水)

会場:品川プリンスホテル新館(品川駅前徒歩5分)

日程:1日目 :午後 特定合同班会議 (公開)

2日目 :午前 特定合同班会議 (公開)

午後 RNAミーティング + ポスター発表

3日目 :午後 RNAミーティング + ポスター発表

夕方 懇親会

4日目 :全日 RNAミーティング(+ ポスター発表)

午後 3時ごろ閉会

宿泊:新館ダブルルーム(シングル使用) ¥13,900 (朝食・サ込み)

新館ダブルルーム(2人使用) ¥19,200 (朝食・サ込み)

本館シングルルーム¥10,600 (朝食・サ込み)

世話人:中村 義一



(東京大学医科学研究所)

(許可を得て掲載)

## 日本 RNA 学会ホームページについて

---

日本 RNA 学会のホームページ(<http://molgen.biology.kyushu-u.ac.jp/usr/RNA/index.html>)を、RNA 研究若手の会ホームページから発展させた形で開設致しました。年会の案内や記録だけでなく、関連シンポジウム、講習会、セミナー、集会などのお知らせや、求人求職など会報でおぎないきれない情報を中心に大小に関わらず随時掲載していく予定です。皆様からの情報提供(ローカルなものでも構いません)、及びより良いホームページにするための意見をお待ちしております。

---

### ●ホームページに関する連絡先

〒 812-8581

福岡県福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学大学院理学研究科生物科学専攻

谷時 雄

ttaniscb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

Tel: 092-642-2627

Fax: 092-642-2645

( 谷 時 雄 )

## Genes to Cells 誌への投稿よびかけ

---

刊行以来4年目を迎えました Genes to Cells (Editor-in-Chief, J. Tomizawa) の Impact Factor が今秋報告されますが、4前後のスコアに集計されるということです。初めてのスコアとしては順調な評価で、右肩上がりの伸びが期待されます。RNA 学会も盛会にスタートしたこの折りに、適当な RNA 関連論文がございましたら、是非ご投稿ください。私、あるいは他のエディターまでお送り頂ければ、速やかに対処させていただきます。なお、これまでには投稿から掲載まで2ヶ月余の迅速なケースもありましたので、とくに発表を急ぐ優れた論文の場合 には効果的です。

中村 義一

Associate Editor

Genes to Cells

## IMSUT シンポジウム

“RNA-Protein Interaction: From Basic Discoveries to Clinical Applications”

---

平成11年11月8日(月)

東京大学医科学研究所講堂(東京都港区白金台、JR 目黒駅徒歩10分)

プログラム(1-6 pm)

Tadashi Yamamoto (IMSUT Univ. of Tokyo) 1.00-1.10

Opening Remarks “RNA-Protein Interaction”

Venki Ramakrishnan (MRC Cambridge, Univ. of Utah) 1.10-1.50

“Structure of a bacterial 30S ribosomal subunit”

Yoshikazu Nakamura (IMSUT Univ. of Tokyo) 1.50-2.20

“A ‘tripeptide’ anticodon and protein tRNA mimicry”

Nahum Sonenberg (McGill Univ. Montreal) 2.20-3.00

“Structure of translation initiation factor-RNA complexes,  
and their modulation signaling pathways”

*Coffee break*

Shigeyuki Yokoyama (Univ. of Tokyo) 3.15-3.45

“Structures of multidomain proteins complexed with RNA”

Mike Gait (MRC Cambridge) 3.45-4.15

“The HIV Tat-TAR protein-RNA interaction: chemical approaches

to understanding structure, function and inhibition”

Kazunari Taira (Univ. of Tokyo) 4.15-4.45

“Design of novel ribozymes that have exceptional activities in vivo”

*Coffee break*

Fuyuki Ishikawa (Tokyo Institute of Technology) 5.00-5.30

“Epigenetic memory, a new concept of epigenetics”

Thomas R. Cech (Univ. of Colorado) 5.30-6.20

“The reverse transcriptase subunit of telomerase”

Ken-ichi Arai (IMSUT Univ. of Tokyo)

Closing Remarks

懇親会(アムジェンホール、講演終了後)

---

主催 東京大学医科学研究所(所長・新井賢一、企画・山本雅)

共催 (財)ノバルティス科学振興財団

日本 RNA 学会

---

シンポジウムへの参加申し込み、お問い合わせは医科学研究所・管理課庶務掛へご連絡ください。

(FAX: 03-5449-5402 )



FASEB Summer 2000 Research Conference

“Posttranscriptional Control of Gene Expression”

---

Copper Mountain Colorado

JULY 16 – July 21, 2000

Conference Chairman :

Bob Simons , University of California, Los Angeles

Stan Cohen , Stanford University School of Medicine, Palo Alto

Organizing Committee :

Lynne Maquat, Roswell Park Cancer Institute, Buffalo

John McCarthy , University of Manchester

Yoshi Nakamura , University of Tokyo

詳細はホームページ (<http://www.mimg.ucla.edu./faseb/>) をご覧下さい。

### 第 3 回 公 開 シ ン ポ ジ ウ ム

#### 「RNA 動的機能の分子基盤」

---

文部省科学研究費補助金特定領域A「RNA 動的機能の分子基盤」

(領域代表 渡辺 公綱 東京大学大学院新領域創成科学)

日時:2000年 2月 7日(月) 10:00より

場所:東京国際フォーラム ホール棟 D ブロック D501 室

(東京都千代田区丸の内 3-5-1:電 話 03-5221-9050)

JR 有楽町駅より徒歩1分、地下鉄日比谷駅、銀座駅より徒歩5分。

なお、午後5時から ガラスホール棟 G ブロック G409 にて懇親会を予定して

おりますので、是非御参加ください。(有料)

---

- 10:00-10:10 渡辺公綱(東京大学大学院新領域創成科学)領域代表挨拶

- 10:10-10:45 饗場 弘二 (名大大学院生命理学研究科) tmRNA の遺伝子発現調節機能
  - 10:45-11:20 伊藤 耕一 (東大医科研) ペプチド鎖解離因子によるコドン識別 機構の解明
  - 11:20-11:55 小宮山 真 (東大大学院工学系研究科) 核酸の2重鎖、3重鎖形成の 光制御とその応用
  - 11:55-13:15 昼食
  - 13:15-13:50 内海 利男 (信州大繊維学部高分子) リボソームタンパク質の rRNA 結合と機能誘発
  - 13:50-14:25 萩原 正敏 (東京医科歯科大難治疾患研究所) RNA 結合蛋白修飾反応による
  
  - RNA プロセシングの制御
  - 14:25-15:00 谷 時雄(九州大院理学生物) mRNA 核外輸送の分子機構
  - 15:00-15:30 休憩
  - 15:30-16:05 中村幸治 (筑波大生物) 蛋白質分泌に関与する低分子 RNA の構造
  - 16:05-16:40 塩見春彦 (徳島大ゲノム機能解析センター) RNA 結合タンパク質の発 現異常に伴う遺伝病
  - 16:40-16:45 世話人挨拶と連絡
  - 17:00-19:30 懇親会(会議室 G409)
- 

問い合わせ先: 太田 成男 (日本医科大学老人病研究所)

[ohata@nms.ac.jp](mailto:ohata@nms.ac.jp)